

第26号

昭和62年10月1日発行

発行所 東京都中野区本町
6-38-1
郵便番号164
電話(03)381-0196
振替口座 東京9-188318
東京文化学園同窓会

発行人 白井スエノ
編集人 青木純子
印刷所 篠塚印刷株式会社

(非売品)

創立六十周年記念事業

昭和二年に「文化女子高等学院」として創立され、翌三年に「女子経済専門学校」となった学園は、今年で創立六十周年を迎えます。

学園ではこれを記念して、新しい専門学校の開設と、校舎の建築を行いました。

専門学校東京文化学園 ビジネスアカデミーの開設

女子のもって生まれた才能を開発し、新しい社会に適合する、国際性豊かな二十一世紀に向けて英語と経済教養に重点をおいた学校で、学園の七番目の学校として今年の四月に開校しました。

英語は英国政府の海外文化活動機関であるブリテッシュ・カウンシルと提携し、少人数教育を行い、経済関係では日本商工会議所の簿記検一級合格を目指します。
校舎は、「桃園寮」の跡に建てられた「桃園校舎」です。

「桃園校舎」の建設

昨年の三月まで、短期大学と医学技術専門学校(医技)の学生寮「桃園寮」があった桃園校地に、約一年かけて新校舎が建設され、「桃園校舎」として今年の四月から教育の場として生まれ変わりました。地上三階、地下一階の校舎には、新しく学園の仲間となったビジネスアカデミーと、本校から移ってきた医技の教室、図書室等があります。

五月二十三日には、二つの学校の新設と移転の披露が同窓生も含めて行われました。

短大校舎の増築

正門の右側に残っていた木造八号館が昨年三月に解体され、約一年の工事期間を経て二号館の増築という形で建替えられました。三階は二七〇人教室、二階から地下

二階(一部)までは図書室、一階は学生ホール等、地下一階は学生用ロッカー室、地下二階は書庫になっていきます。解放的な図書室は同窓生の待合わせにも利用されています。

これに伴って、旧・図書館の跡は、教室や研究室になりました。医技の教室の跡は、改修されて短大・中高の共通教室として使われます。

同窓会館の完成

前号でご案内のように、学園内に同窓会館が完成し、昨年から使用しています。二〇人〜三〇人の集会ができます。(詳細は最終頁)

このほかに、中学・高校の調理室の改修、高校一年に学校給食を行うために学園ホールをカフェテリアへの改築、その他の工事が行われました。

十月十八日の同窓会総会の際に、十一月二日と三日に開催される学園祭のときに、学園の新校舎をご覧ください。

創立六十周年記念 同窓会総会のご案内

学園の創立六十周年を記念して建築された、同窓会館、短期大学校舎、図書館等の見学を兼ねて、次のように同窓会総会を開催いたします。是非ご出席ください。

大勢の同窓生とご一緒に、学園の発展をお祝いしたいと思います。

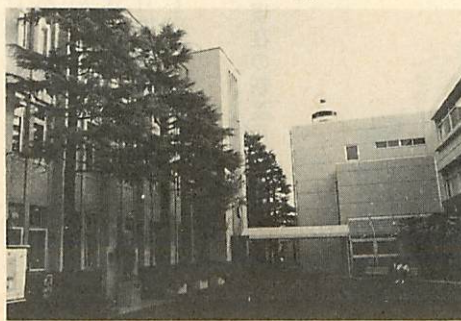
○日 時 十月十八日(日)
午前十一時から

○会 場 学園内
短期大学七番教室
第二カフェテリア
その他

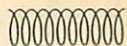
○会 費 三千元
○その他 楽しい福引きもいたします。

ご出席の方は、十月七日までに同窓会総会係に葉書でお申込みください。

〒一六四 東京都中野区本町六一三八一
(電話) 〇三三三八一〇一九六



学園の思い出



創立六十周年を迎えるにあたり、お辞めになった先生方に、ご在職

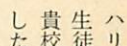
川村 隆子 先生

当時の思い出を執筆していただくようお願いしましたところ、次の二先生から原稿をお送りいただきました。お忙しい中、ありがとうございます。

創立六十周年を迎えられ、校運益々御発展の御様子を伺い、心からお慶び申し上げます。

学園で最も古い校舎、新渡戸記念館の移り変わりの写真とともに昔を懐かしみ、母校の発展を祝いたいと思います。

私が御厄介になりましたのは昭和二十四年から二十七年の僅か三年位でしたが、戦後の混乱もや治まり、新しい時代の教育が始まり、各科目の先生方が自由にのびのびと、そして生き活きと教務に



ハリキッて居られました。勿論、生徒さん方も夫々の個性を伸ばし、貴校の教育方針通りに実に活発でした。

その後の御様子でも、同窓会の活躍が目覚しく、各方面で実力を発揮していらっしゃる方が多く、こうした先輩を持つ学校は前途洋々と存じます。

横山 孝光 先生

私も其後私立学校にやや関係を持って居りますが、比較しても東京文化学園の同窓会は素晴らしいとこちらまで鼻の高くなる思いです。先生方との交流もつづき、つくづく良い学校にお世話になったと懐

しさと喜びで一パイです。では益々の御発展をお祈り申し上げます。(旧姓 羽柴 中高 国語担当)

は並大抵のことではありませんでした。しかし先生方や生徒の協力で、夢中に練習や準備をしました。この年三つの新しい企画をしました。早朝、景気づけに煙火を打上げること、スクエアダンスをやることでした。

毎年の会報「泉」を楽しく読ませていただいております。学園や同窓会の発展活動にはいつも関心をもっております。今年も創立六十周年の記念すべき年だそうで誠にめでたいことです。

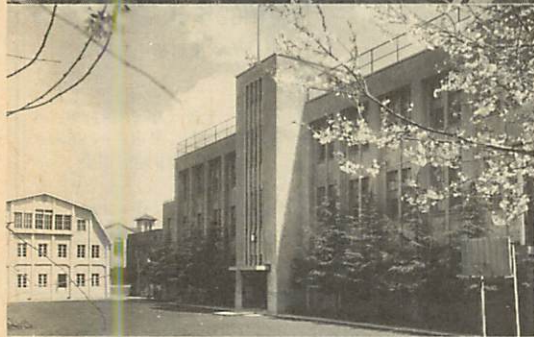
私の在職中の思い出は沢山ありますが、何といたっても体育祭にあります。新米教員が伝統ある学園の一大行事を企画・運営することもお忘れられません。(中高 国語担当)



設立当時の
新渡戸記念館
昭和十一年



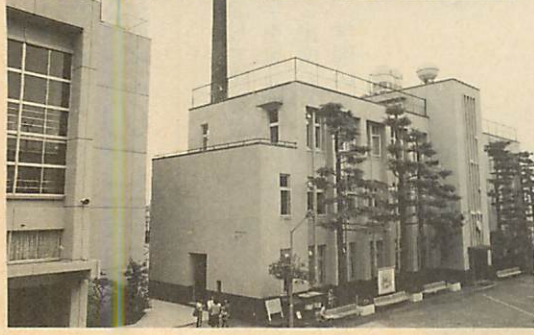
春の運動会
入場行進
昭和十五年



桜が映える
新渡戸記念館
昭和二十二年



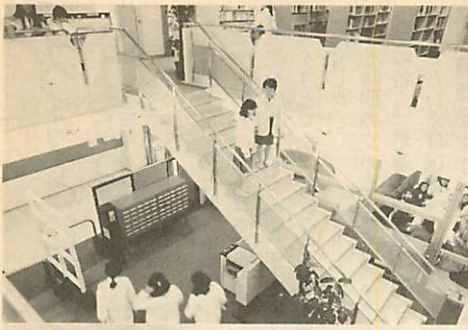
高校卒業式
昭和二十八年



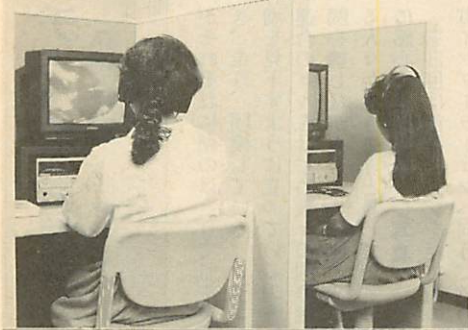
現在の
新渡戸記念館
左は体育館

創立六十周年 新装なった 校舎

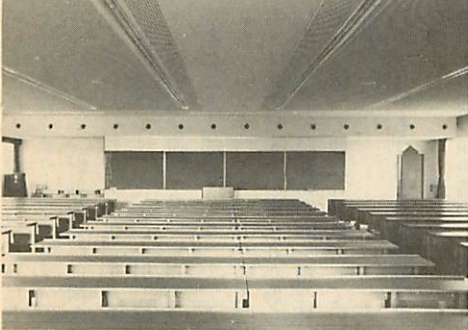
このたび創立六十周年記念事業として、校舎の新築や増築が行われました。また、青梅街道に面したビルの二階から五階までを借り、「別館」としてパソコン実習等を行っています。
ここでその一部の紹介をいたします。



二号館の図書館の一階ロビーから二階の閲覧室に上る階段



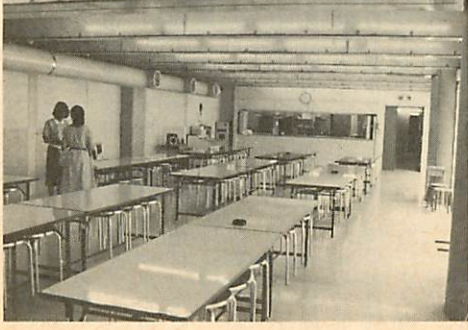
二号館の図書館のAVコーナー。ビデオテープが借りられます。



二号館の三階の短期大学七番教室。二七〇人が同時に授業ができます。



桃園校舎の中庭。地下一階のところまで掘られていて、カフェテリアが続いています。



桃園校舎地下のカフェテリア。約一二〇人収容で、中庭に続いています。



同窓会館の会議室、約二十人の会議ができます。会議用机・椅子は準備中。



別館のパソコン演習室。階下にワープロ演習室があります。



桃園校舎の正面。右側に講義室と図書室、左側に実習室と管理部門があります。



桃園校舎の図書室。医技とビジネスアカデミーの共用です。

スイスとロマンチック街道を 訪ねて

高女22年卒 伊藤美和子
(旧姓 大山)



八月二十日午後九時三十分、甲子園準決勝戦に湧く日本を後に、湊先生を団長とする総勢二十四人はスイスとロマンチック街道の旅に出発した。

十七時間の空の旅を終えジュネーブに着く。早速市内観光。ジュネーブといえど国連ヨーロッパ本部、国際赤十字社、I.L.O.、W.H.O.などがあり、国際会議もしばしば開かれる都市ということとで、どんなにかめししい街かと思つて来たが、公園や散歩道には花が咲き乱れ、森も多く、街全体が緑に包まれている。木陰のベンチで休む老人。恋人、若者、家族

がそれぞれに湖のほとりで肌を焼き、走り、団欒している。レマン湖を見下すように立っている国際連合のビルをはじめ数々の国際機関を擁しながら、そこに住んでいる人々が生き生きと暮しているのに感心させられた。(写真)

三日目は首都ベルンを経て山の町インターラーケンへ向う。道の両側はぶどう畑、勿論ワイン用。こちらの木は背が低くほっそりとして、それが静岡の茶畑のように並んでいる。オリンピックの報道の時よく耳にするローザンヌ、国際ジャズ・フェスティバルのモントリールなどを通過。

行く先々に古いお城が残っている。そのひとつ、千早城のように山の頂に立つグリエール城を見学した。十五世紀に建てられたというこのお城は、一階は荒々しい感じで床には石が敷きつめられ、当時の武器が飾られている。三階は王様の寝所と王女様のお部屋、ここは優雅でその時代の領主の生活を彷彿とする。

ベルンの街に入る。ベルンというのは熊のことを初めて知る。あちらこちらに熊さんの絵が描かれた州旗が掲げられている。運の

いいことに、私達の着いた日は五十年記念のフラワーフェスティバルというので、街が華やかに湧きわたっていた。私達も子供達のパレードを追いかけ、花かごを引く娘さん達と記念撮影をし、すっかり花祭にまぎこまれてしまった。こんなフェスティバルの日でなくてもスイスでは家々の窓に花が飾られている。短い夏の季節を精一杯美しく飾って観光客を歓迎しているようだ。

スイスのもうひとつの特徴は水の豊かなことで、街のあちこちに冷たい水が龍の頭や鳥の形に造られた蛇口から流れ、噴水も至る所に見られる。水が豊かだということも電力も豊かで、街には電車が縦横に走り、家庭の電化もすすんでいるとのことだ。昔はこの電力を輸出して国の経済が潤っていたのだそう。

明日はいよいよこの旅行のメイン、ユングフラウ登山である。バスは登山の基地インターラーケンへ向けて走る。白い雪を頂いた山が次第に近くなってくる。朝起きて外に出るとユングフラウの雄姿が目の前に見える。お天気に恵まれたようだ。

バスを降りて登山電車に乗る。こんな所によく住んでいると思う山の斜面に家が点在している。家がなくならずカウベルを首にした牛たちが群をなし草をはんでいる。アイガー北壁が目の前に迫って

きた。どうしてあんな岩場を登りたくなる人がいるのだろう。垂直に切り立った岩壁は恐しい程である。

もう一度電車を乗り替える。今度はトンネルが多い。途中二カ所水河を見ることが出来る駅がある。「走っては駄目ですよ、高山病になるから」と添乗員さんの注意をうけゆっくりと窓の所へ行く、どれだけの年月の間積った雪なのだろうか。普通では近づくとこの出来ぬ氷河が目の下に見える。この鉄道を敷いたのが今から七十年前と聞き、スイスという国の底力に感心する。

いよいよ終点。降りると立派なビルがあり、そこから数カ所三千米の雪や氷の世界にふれることが出来る出口がある。セーターにヤッケ、フードもかぶり外に出る。滑らないように気をつけながら少し歩いたが、上の方はアイス・バーンになっているので引き返す。次に氷のトンネルに入る。中央の広場にある五重の塔や藤娘等いくつかの氷の彫刻は全部日本のもの。日本週間ということを目にしたが、そのためなのだろうか。

昼食後ルツェルンへ。カペルの橋という古い木製の屋根のある橋を渡る。時間に追われるようにしてチューリッヒへ。新石器時代から人が住んでいたというチューリッヒは、今やスイス最大の都市であるが、観光地としては、味気

ない。それでも目の前にチューリッヒ湖、そこから流れるリマント川を中心にした緑の多い街である。市街地は窓辺の花も少なく、チューリッヒ大学のあたりでは車の渋滞も経験する。生憎月曜日のためヨーロッパの王家の家具のコレクションが展示されている博物館は休館日。午後から市立美術館へ入る。かけ足ながらしばしば美の世界にひたる。スイスでの最後の時間はパンホフストリートでのお買物。ローレックスへ、バリへ、オメガへ、と皆走り廻る。

夕暮のスイスに別れを告げ、ドイツのミュンヘンへ。三十分の空の旅で国境を越える。下を見るとミュンヘンの街の灯が私達を迎えてくれている。ホテルへ向うバスが僅かばかりアウトバーンを走る。

「ブー！」という凄じい音のモーニング・コールでミュンヘンの朝は明ける。六日めはこの旅行のもうひとつの山場、ロマンチック街道の旅である。ドナウ川を渡る。上流ながら緑の水をたたえてゆったりと流れている。

道の両側はどこまでも広がる緑の牧草と茶色の小麦畑、まるで北海道を走っているようだ。悲劇の王ルードリッヒ二世が建てたノイシュバンシュタイン城に着く。奇しくも八月二十五日は王の生誕の日ということで大変な人。待つこと二時間、中に入ると日本語の説

明がありとてもよく解る。あらゆる贅をこらした部屋、科学の粋を集めた内部に目を見張るばかり。ただ大理石を登りつめた王座が未完成で、この城に三カ月しか住めずに変死したという王が憐れであった。

いよいよ中世の町ローテンブルグへ。白川郷の合掌造りのような屋根に、レンガ色の鱗状の瓦のついている家々が立ち並んでいる。それが古くなってゆがみ、波うちよく保っていると驚いてしまう。

午後九時にこの街を救った一気飲みの元祖ヌッシュ市市長とティリ將軍の姿が見られるというので、

夜八時、われもこう、りんどう合わせて八十帖の部屋に希望者が集まり、文化踊りとみずほ踊りの講習会です。初め見るだけだった人もほとんどが輪に加わって、最後に二回通して踊った時はもう完璧な出来でした。

解散後、レクリエーション係の我々五人は明日に備えての練習です。とにかく、事ここに至っては思い切り元気よく狸踊りをやるっきゃない、というわけです。

信州の鎌倉別所温泉の旅

高校28年卒 山下陽子
(旧姓 細谷)

八月二十六日、西新宿から出発した同窓会の旅行は好天に恵まれ、二十八日夕の解散まで、参加者全員何の故障もなく初秋の信濃路を楽しんできました。

・高原ドライブと追分宿

中央高速から、小海線に沿って八ヶ岳山麓の道を北上、松原湖で一息入れ、昼食は佐久の鯉料理に舌鼓を打ちました。午後は追分宿の見学で、分去れの碑に始まり、泉洞寺へ。泉洞寺は鮮やかな水引草と樹下石仏が素朴な美しさを見せていました。

・浅間高高原寮

「吹とばす石は」となっています。紫紅色の木樅に迎えられて入った高高原寮は、開設当初の一棟から現在は四棟になり、施設も充実しています。放送設備のないのが玉にキズとのことでした。

五時過ぎ、食堂に集合。ここで合流された森本備子先生のお姿を久しぶりに見て、胸が熱くなつたのは私一人ではないようでした。御代田町老人会有志による小室節の演奏会は、全国的に有名な信濃追分の原曲というだけあり、鈴の音とともに耳に残りました。夕食は中川先生はじめ短大調理室の先生方の心づくしの料理が並び、大変美味しくいただきました。

・夜のにぎわい

夜八時、われもこう、りんどう合わせて八十帖の部屋に希望者が集まり、文化踊りとみずほ踊りの講習会です。初め見るだけだった人もほとんどが輪に加わって、最後に二回通して踊った時はもう完璧な出来でした。

・信州の鎌倉

北条氏ゆかりの塩田平は鎌倉時代の建造物が多く、国宝や重文が密集しています。中でも大法寺の見返りの塔と百日紅、前山寺の見事な萱ぶき屋根の本堂、未完成の塔(写真)について熱心に語る住職などが印象的でした。それから信濃デッサン館の詩人たちの絵展では天折の村山槐多、立原道造などの絵が見られました。

・いよいよ本番

翌日の朝食後、旅館の方の案内で、北向観音、常楽寺、安楽寺を見学。北向観音にある芭蕉の句碑「観音のいらかみやりつ花の雲」は、芭蕉句集によれば若葉の句で、有名な「花の雲」は上野か

翌朝八時より街を見物、聖ヤコブ教会にある見事な彫刻が忘れられない。この教会だけでなく、それぞれの街に古い教会があり、それが今でも市民の生活に密着している姿から日本人に無いものを感じる。アウトバインをひた走りミュンヘンに戻る。最後に四代九十五年の歳月をかけて作られたミュンヘンベルグ城の想像を絶した広大さに驚かされる。

ミュンヘンの夜はビヤブァーティ、運転手のヨハンさんと、踊る、団長湊先生の頬が若々しく輝いていた。

浅草か」と一連の作品で、観音は浅草寺と註がついていました。

・おわりに

初参加して一番感じたのは、旅行社まかせにせず、内容の濃い企画を立て、様々の雑務をこなしてくださった黒沢教子先生はじめ役員の方々のご苦労です。本当にありがとうございました。緑濃い山脈、亭々と立つ大樹、野にゆるるコスモス、萩、葛の花、木立の中の多宝塔など楽しい旅でした。又の機会を待っています。ごきげんよう。



花屋ホテルは純和風の格式ある雲鐘は上野か

“VERITAS VOS LIBERABIT”

「真理は汝等に自由を与う」(新約聖書ヨハネ伝8章)

沿革

- 昭和2年 **女子文化高等学院**を東京市本郷区元町(現文京区本郷二丁目)に創立する。役員は理事長に法学博士森本厚吉、理事・法学博士吉野作造、理事・医学博士橋本寛敏、学院長には森本静子が就任する。
- 昭和3年 専門学校令により**女子経済専門学校**と改称する。初代校長に新渡戸稲造、理事長兼副校長に森本厚吉が就任する。
- 昭和6年 現在地所在の成美高等女子学校を引継ぎ、**附属高等女学校**と改称し、新渡戸校長が兼任する。
- 昭和8年 新渡戸稲造校長逝去により、副校長森本厚吉二代校長に就任する。
- 昭和9年 東京都中野区の現在地に移転する。
- 昭和18年 地方学生のために東京都中野区桃園(現中野区中野3丁目)に学生寮を開設、**桃園寮**と命名する。
- 昭和19年 **東京女子経済専門学校**と改称し、経済科・保健科・育児科を設置する。
- 昭和21年 英文科を設置する。**附属幼稚園**を開設する。
- 昭和22年 学制改革により、附属高女は**東京経専中学校**および**同高等学校**に分かれ、校長に森本厚吉が就任する。
- 昭和23年 **東京経専小学校**を開設し、校長に森本厚吉が就任する。
- 昭和25年 森本厚吉校長が逝去したため、森本静子が校長・園長に就任し、橋本寛敏が理事長に就任する。**東京文化短期大学(家政科)**を設置し、学長に森本静子が就任する。東京経専高等学校・同中学校・同小学校・同幼稚園を東京文化高等学校・同中学校・同小学校・同幼稚園と改称する。**児童研究所**を新たに設置する。
- 昭和26年 学校法人**東京文化学園**を設立、理事長に橋本寛敏が就任する。従来の専門学校は発展的に解消する。
- 昭和27年 短期大学内に**医学技術研究室**を開設する。
- 昭和30年 **東京文化医学技術学校**を開設する。医学技術研究室は発展的に解消する。
- 昭和39年 森本武也が学長に就任し、森本静子は学園長に就任する。**浅間高原寮**を長野県御代田町に開設する。
- 昭和46年 任期満了のため橋本寛敏理事長が辞任し、大浜英子理事が理事長に就任する。医学博士松木光が副学長に就任する。
- 昭和47年 医学技術学校校長に医学博士守屋博が就任する。
- 昭和49年 幼稚園長・小学校長に鈴木光雄が、中学校長・高等学校長に土居孝輔が就任。理事長に大久保安威理事が就任する。
- 昭和51年 50周年記念事業の一環として杉並区和田1丁目に約3,300m²の校地を購入する。**東京文化医学技術専門学校臨床検査学科**と改称。
- 昭和52年 創立50周年記念式典を挙行。東京文化学園五十年史刊行
- 昭和53年 幼稚園長・小学校長鈴木光雄の逝去により、幼稚園長に森本光生が就任し、小学校長に永山義夫が就任する。
- 昭和54年 幼稚園・小学校新校舎が、杉並区和田1丁目に竣工し、二学期から授業開始。
- 昭和56年 医学技術専門学校校長に医学博士福岡良男が就任。旧二号館、四号館、七号館を解体し、跡地に体育館を建設し、東グラウンドを整備し、9月から使用する。創立50周年記念事業を完遂。
- 昭和57年 小学校長に橋本正礼が就任する。
- 昭和59年 短期大学長・学務理事森本武也が退任し、名誉学園長に就任。短期大学長に理学博士佃正昊が就任する。幼稚園長に橋本正礼が兼務する。
- 昭和61年 桃園寮を閉鎖し、新校舎の建築を始める。短大八号館を解体。同窓会館を新築する。
- 昭和62年 **桃園校舎**を新築し、**専門学校東京文化学園ビジネスアカデミー**を開設し、校長に福岡良男が兼務する。医学技術専門学校を桃園校舎に移転する。短大二号館を増築する。



創立者
森本厚吉先生



初代校長
新渡戸稲造先生

あなたの良き後輩としてふさわしい

学生・生徒・児童・園児の

ご紹介を!

募金のお願ひ

理事長 大久保安威

昭和二年に女子文化高等学院として創立した東京文化学園の同窓会は、全国に支部29か所、同窓会員数一万七千人余となりました。創立者森本厚吉先生、初代校長新渡戸稲造先生の建学の3日精神を實踐し、各方面で社会に貢献されてゐる卒業生の活躍は、後進者の誇りと、大きな励みとなっております。

今年創立六十周年を迎え、学園では森本記念館建築、桃園校舎建築「専門学校東京文化学園ビジネスアカデミー」設立、八号館解体及び二号館増築等、記念事業を着々と遂行してまいりました。昨年十月から学園関係者にお願ひしている資金募集は八月末現在一億二〇九〇万円に達しておりますが、目標額二億円にはまだ遠く及びません。是非共同窓生の皆様のご理解とご支援をいただき、建設以来の教育の理想を実現させるべく、ご協力をお願いいたします。

募金要項は、七月に東京文化学園でお送りいたしました。お問合せ先 学園会計課

東京文化学園

案内請求券 (同窓会)

この請求券を切りとって同封した場合、学校案内は無料になります。必要とされる学校名に○印をおつけ下さい。
短大・医技・ビジネス・高校
中学校・小学校・幼稚園



専門学校

東京文化学園

ビジネスアカデミー開校

昭和六十二年四月九日、東京文化学園に七つめの新しい学校が誕生しました。十一人の希望に燃えた若い瞳が、福岡校長の祝辞を述べるお顔に注がれていました。三月二十五日に中野区長から正式認可の通知を受けてスタートした「専門学校東京文化学園ビジネスアカデミー」は、この日、入学式が行われました。

学園創立者の森本厚吉博士の理想とされた、「女子に経済の知識を、そしてもって生まれた才能を開発し、新しい社会に適合する、国際性豊かな女性を育て、新しい時代へ向けて世の役に立つ人を育てる」ことを目標に開校しました。この新しい学校のスタートを、学校関係者、そして英語教育に関し全面的協力を申し入れて提携したブリテッシュ・カウンシルのバーネット氏(駐日英国大使館参事官、開校申請に協力いただいた保坂三蔵東京都議会議員、そして、これから授業を受け持ってくださいる講師の方々に囲まれ、チョッピリ緊張し、高校時代と違ったよそゆきの服に身をつつんだ新入生。

一つ一つが手作りのこの新しいビジネスアカデミーの開校、これからの時代に、適合できる女性像を求めている開校です。すでに「いづみ」第二号でこの専門学校の開校の主旨はお知らせしましたので、少し重複するかも知れませんが、あらためてご紹介いたします。



英語の授業

森本厚吉先生が、女子経済専門学校を開設された当時の理想を再現すべく、「女性に新時代に適應する高等教育を授け、生まれつきの才能を最大限に開発し、新しい社会に出て活躍するために、消費経済の実態を身をもって会得させる」ことを主眼として、カリキュラムを組んでいます。森本先生は、女子経済専門学校創立記念講演会で「男と女が同程度の立場で活動している外国に比べて、日本では男が一人の力で働いている。外国のように女の力が加わって一十一二のようにならねばならず、国力を高めるためにも、女子の教育に力を注ぎ、よき指導を与え男と同じように仕事をさせたい。」と言われています。又、当時の女性について、「長い年月学問をしたのに、人の間に明らかに答えるぐらいの事がなせ出来ないのか、「貴女は兄弟がおりますか」ときくと、三人の兄弟が、一番上の兄さんはいなくて、二番目のはこうこうでという風にこちらで知ろうとすることをよく推察して、それぞれ上手に表現して、一度きけば完全に総てを知ることが出来るように答える人は、役に立つ学問をした婦人である。その反面、同じ質問にただ「三人あります。」と答える人がある。「男ですか女ですか」、「兄さんですか弟さんですか」のよう

に何度も問わねば全部がわからぬ答をする人もいる。日本では、智力・教養とも外国に優るとも劣らぬことは承知のとおりである。ビジネスアカデミーは、今までの同系の専門学校とは違った行き方を試みているといえます。それは、英語・会計・実技に加えて、豊かな教養を育てるための「教養科目」に重点を置いたカリキュラムを組んでいます。英語を使うために、その背景となる英語国の文化的な面を知らねばならないでしょう。芸術的なバックが英語圏



企業見学 築地魚河岸

の人の物の考え方に大きな影響を与えているでしょう。それと同様に、日本の事象を知るためには、日本文化の真髄といえる「茶道」を知ることも必要と思います。

東京文化学園ビジネスアカデミー

専門学校

昭和63年度 募集日程

2年制 高卒女子 90名

Table with columns: 推薦入学, 試験入学, 願書受付締切, 選考日, 合格発表, 選考内容. It lists dates for application and exam periods.

短大教育のソフトとハード

世はコンピュータ時代。ひところでは部屋いっぱい置場所が必要だったコンピュータの本体も、いまではぐんと小型になり、卓上に収まるようになりました。また、その機械ができる計算や設計など、まさに十年前とは比較にならないくらい複雑なことを早く処理できるようになっています。コンピュータの用語で、機械の本体のことをハード、その機械が行うことのできる内容のことをソフトといいます。ハードの進歩に伴って、いろいろなソフトの開発が行われることによって、初めて利用価値が高まってくるわけです。さまざまに組まれたプログラム

のソフトがなければ、高価な機械も、宝の持ち腐れです。

さて、教育の場でもこれはいえるようです。教育の中のハードといえは、校舎や教室、実験や実習の設備、体育館やプールです。調べてみれば、それなりのお金を注ぎ込めば整うもの、ともいえるでしょう。

確かに一定の場所がなければ何もできませんし、よい設備があれば

ば何らかの効果があがることは当然です。本学園の六十周年の記念事業の一環として、教室や、図書館の整備が行われたことは、この意味から喜ばしいことです。

けれども、コンピュータの高価なものも備えつけても、すぐれたソフトの開発、それを利用する敏腕のオペレーターがいなければ効果はあがらないように、教育には中味が大切で、よい教師がよい教育をしなければ、よい学校とはいえません。

東京文化短大がこの十数年、いろいろと試み、実施してきたことは、この意味での、いわばソフトの追求でした。いまではすっかり定着した卒業研究も、そのひとつです。これを始めた七十年代の前半には、全国の短大でも、この種の学生の自主研究を課しているところは、まだそれほど多くはありませんでした。卒業研究の開始についてのガイダンス、登録の方法、研究発表会の実施などについても、いくつかの短大から問い合わせがきました。その都度、書式から何から、ノウハウをすっかり提供し、たいへん喜ばれたものです。

すでに二十六号になった「文化生活」に、数年前から全学生の卒業研究のテーマを、年鑑なみながら、毎年掲載しています。少しずつ蓄積されていくテーマのリストを見てみると、学生たちの歩んできた軌跡が感じられます。

昨年の後期から実施された、教養コースの必修ゼミナルも、最初の一年を経過して、それなりの成果が得られました。個学長のゼミでの話題が発端となって、ことしはさらに、ホテルでの朝食会という新しい試みも緒につきました。

☆

短大の組織の上では、この四月から新しい体制ができて、コース主任制度を明確にし、食物栄養コースに伊藤一重教授が、教養教職コースに蒲田稔教授がそれぞれ就任、コース内の連絡、事務などが円滑にすすめられるようになりました。

就職指導の面では、企業の求人動きが昨年より早まったため、夏休みから忙しい対応が始まりました。

白鳥学生課長、就職担当の大野教務部次長が、学生一人ひとりに細かい指導をしています。

数年先の学生増に備えて、全国の各短大では、学科の増設、定員増を次々に打ち出しています。

ただ、設備は卒業したのち、各自が持っていくわけにはいきません。しかし、そこで身につけたものは、生涯、その人の財宝となります。

敷地の関係で、かたちの上での現在以上の規模拡大は困難な本学では、いったん増えた十八歳人口が次いで急減していく十年先の時代を見据えて、よい教育のソフトを一層充実させるよう努力しています。

(短期大学教務部長)

沢野 勉

必修ゼミナル



学生募集要項

家政学科

■食物・栄養コース
(栄養士免許取得)

■教養・教職コース
(中学2級家庭・保健科教員免許取得)

お問い合わせ
短大教務課 (381)0196 内線233

出願方法	願書受付期間	試験日	合格発表	試験科目および必要書類
推薦入学	第1期 11月20日(金)～ 12月4日(金) まで必着	12月8日火	翌日郵送	面接・作文・基礎学力テスト 入学志願書・調査書・健康診断書 (推薦書推薦出願を希望する者のみ) 2期では推薦書がなくても受付ける
	第2期 1月28日(木)～ 2月5日(金) まで必着	2月9日火	翌日郵送	
試験入学	2月20日(土)～2月29日(月) までに必着	3月4日(金) 午前8時 40分集合 午前9時 試験開始	3月5日(土) 本学掲示	●食物・栄養コース…国語(国語Ⅰ・Ⅱ) 英語(英語Ⅰ・Ⅱ)、理科(理科Ⅰ・生物 ・化学より選択)、面接 ●教養・教職コース…国語(国語Ⅰ・Ⅱ) 英語(英語Ⅰ・Ⅱ)、理科(理科Ⅰ・生物 ・化学)または社会(日本史)より選択、面接

近代医療で最も重大な 役割をもつ臨床検査技師

学園創立六十周年記念事業の一つである医学技術専門学校と桃園校舎への移転が今年の三月に無事に終わりました。

この校舎は福岡良男校長の「欧米諸国の臨床検査技師学校と同様の優れた設備の下で、世界的に通ずる水準の実力をもった学生の養成を行う」という考えのもとに建設されました。

折しも臨床検査技師養成のため



明るい実習室

のカリキュラムと指定規則が改正されましたが、新しい指定規則による、第一号の施設として厚生省の指定を受けました。特に厚生省の担当者から、施設、設備、環境は全国のモデルになるとの言葉をいただきました。

設備機器紹介

ビデオとコンピュータの設置された普通教室(6室)、広々とした実習室(6室)、研究室を兼ねた実習準備室(2室)、医学写真教育用暗室、天秤室、滅菌室、冷蔵室、器具庫等の他に図書室、カフェテリア、保健室、シャワー室が設置されています。特に図書室の整備には力を入れ、すばらしい図書室ができました。

機械器具も自動分析機(コールター)自動血球計算機2台、日立オートアナライザー、テクニコンオートアナライザー、マルチ顕微鏡デイスカッション用顕微鏡(約50台)顕微鏡用写真装置2台、蛍光顕微鏡3台、生理学実習用脳波計、心電音脈波計2台、超音波検査機械およびシールドルーム等、現在の技師教育にふさわしい内容

がととのえられています。教育は厚生省指定カリキュラム以外に医学英語、コンピュータ教育、ワープロ教育、電子顕微鏡学、医学写真学などを実施しています。技術教育のほか、医療人としての人間教育にも力を入れていきます。

カリキュラム

今年六月二十日に福岡校長がリブラ会会員全員(住所が同窓会事務局に登録されている方)のために新校舎披露の会を開催し、約五十人の会員にご出席いただきました。当日御都合でおいでいただけなかった方にも是非とも新校舎を見ていただきたく思いますので、何時でもお越し下さるようお待ちしております。

七月二十四日に日本臨床病理学会の二級技術士血清学資格試験が桃園校舎で行われました。試験委員である各大学の先生方から、設備と実習環境は最高であるとの感想をいただきました。このように技師教育の場としてふさわしい充実した設備ができたことは本校卒業生からも喜ばれています。

現在は臨床検査技師として男性も進出し、一生の仕事として取り組んでいる人が多くなりました。女子校である我が校は福岡校長を中心にして伝統を守り、ますます発展すべく努めています。

就職状況

今年度及び最近の就職状況をお知らせいたします。最近卒業生の就職が多少困難になってきたと見られていますが、本校では卒業予定者の10倍以上の求人があります。卒業生全員が希望通り就職していただくことは幸いと思えます。求人に

きたえられなかった病院施設には求人のお礼とおわびを同時に申し上げているような状態です。最近の卒業生の傾向としては、大病院、大病院志向は以前と変わりませんが新しい分野として民間の検査センターや企業の学術課、器械メーカーのインストラクターとして進出していく者も多数出てきています。

昭和三十九年3月の就職先

東京大学附属病院、東京慈恵会医科大学附属病院、昭和大学病院、昭和大学藤ヶ丘病院、日本医科大学附属病院、東京女子医科大学病院、独協医科大学病院、独協医科大学越谷病院、聖マリアンナ医科大学病院、東京医科大学、東京女子医科大学、順天堂大学、国立病院医療センター、東京通信病院、虎の門病院、東京厚生年金病院、東京警察病院、墨東病院、聖路加国際病院、西荻中央病院、三井記念病院、小平中央病院、大宮赤十字病院、亀田総合病院、塩野義製薬㈱、北区医師会検査センター、松本医師会検査センター、SRL、BML、日本光電㈱、東芝メディカル㈱、オリンパス光電工業㈱(順不同)

学生募集要項

修業年限	3年
募集人員	64人
入学資格	高校卒業(又は同程度の者)
出願書類	入学願書、出身校の調査書、健康診断書、推薦入学の場合は出身校の推薦書
選考方法	① 推薦入学
願書受付	昭和62年11月5日～12月1日
選考日	12月3日～4日(適性検査、面接)
合格発表	12月5日
選考方法	② 試験入学
願書受付	昭和63年1月7日～2月4日
選考日	2月8日～9日
合格発表	2月12日
試験科目	「英語1」、「化学」「生物又は物理」

* 二次募集があります。

* 詳細は「学校案内」をご覧ください。

“のびのびと 学校生活を楽しむ”

校長 土居 孝輔
高等学校長

同窓会のみなさん、お元気にお過ごしでしょうか。母校への日頃のご協力に感謝いたします。お陰様で、少しずつ教育環境も改善され、生徒たちは明るく、のびのびと学校生活を楽しんでいきます。

今年度は、中学校が十三クラス、高等学校が十三クラスの編成になりました。

一人一人の生徒にライトをあて、受験中心の教育ではなく、3日精神に基礎をおいた人格教育の成果が認められた結果でしょう。

最近では、同窓生関係の入学者も増えております。やはり身内に認められ、支援していただくのが一番です。

「安心して、子どもをあずけられる学校」としての評価を、ますます高めるよう努力していきますので、よろしくご支援ください。

中学 高校の現況

五日制の実施

中学校、高等学校の現況をお知らせしたいと思います。

五日制を実施しています。

自分のために自分で学ぶ習慣を身につけることにより、受身的な生活から積極的に行動する生活へをねらいとしています。

月曜日から金曜日までは、学校で普通の授業が行われますが、土曜日は、ねらいに従って「自学自習」の日となって、学校では授業は行いません。

学年ごとにテーマがあります。

中一は予習・復習を習慣づけることです。中二・三年は予習・復習の習慣化の継続ですが、更に私の研究というテーマが行われています。これらは土曜ノートを通して担任と家庭との連絡がはかられて成果をあげています。

高一は「母親に学ぶ」がテーマです。土曜日は一日、母親がわりをしながら、母親から学んでいくということですが。

高二では教科色のある自学自習のテーマ「自主履修学習」です。各教科よりのヒントを参考に、各自で年間学習テーマを決め、途中、教科の先生の指導助言を受けながら実行します。

高三は進路を中心にすすめています。

落ち着き、それぞれの成果をあげています。

これら五日制の生活スタイルも

人格形成を養う多様な行事

海外研修旅行

本校では、生徒のもっている能力を、数多くの機会を与えることによって、どれかの機会に発揮させたい。社会生活がうまくやれるようにさせたい。良いものを見たり聞いたりして、心豊かな人間に

したい。などなど、人格形成を多様な行事を通して導いていきたいと考え実行しています。

より優れた生の芸術鑑賞による情操教育。今年の舞台鑑賞は国立劇場で歌舞伎教室「俊寛」でした。

夏は浅間高原寮へ

浅間高原寮を利用しての、中学校一・二年の夏期学校、高校のクラブ合宿も夏期に実施されます。年々、施設も整備され、恵まれた自然環境とあわせ、貴重な教育現場となっています。

カナダへ海外研修

高二が主体の希望参加行事「海外研修旅行」も、今年で十一回を数えました。海外生活を体験し、国際的視野をひろめることを目的に、初代校長の新渡戸先生ゆかりの地カナダを約四週間、ホームステイを含めて実施しています。今年の参加者は高二学年の半数以上の114名でした。一まわり大きくなって帰って来たようでした。



TOKYO BUNKA SENIOR HIGH SCHOOL
CANADA - U.S.A. STUDY PROGRAM

▲海外研修旅行

▼外人講師による
英会話授業を4
月からはじめ
ました。



秋を彩る

創作舞踊発表会や学園祭

9月25日に創作舞踊発表会が行われます。一学期から体育の授業で、クラス一丸となって、知恵を絞って作りあげる創作ダンスの発表です。ここでは創造力や協調性など人間関係の勉強が自然に行われるのです。

恒例の学園祭が、11月2・3日に行われますが、日常の教育活動の成果を発表する場としてとらえていますので、生徒の実行委員を中心に創意工夫の成果が発表されています。

暮の12月末にスキースクールが希望参加で実施されますが、年々中学生の希望者が増え、大きな行事の一つになっていきます。

正月には「かるた大会」が小体育室で開かれます。百人一首を通して古典に興味をもつ生徒も増え、これも年々盛んになってきた行事です。

生活指導もしっかりやっています。

社会の多様化のなか、いろいろな誘惑の声や手がのびてきますが、姿・形・立居振る舞いを「清潔・端正・品位」を基本に指導し、「東京文化は私です」と生徒が自

覚をもって行動していますので、非行のない学校として評価されています。

以上、簡単ですが母校の現状をおわかりいただければと思います。今後建学の精神を柱に、よい伝統を継承しながら、新しい時代にむけて、時代を先取りした学校づくりに努力したいと思います。



秋の創作舞踊発表会



学園祭 芸術の会

外国語教育

これからの日本は、益々国際化していくと言われています。学校での教育内容も、それに合わせていく必要があります。

外国についての知識は、日本人は世界一でしょう。政治・経済・文化など、多くの情報を吸収し、興味をもっていますが、実によく知っています。外国人はこれに對して、日本のことをよく知らないようです。世界には、メイド・イン・ジャパンがあふれています。

日本人は、又、外国の言葉について、大変興味をもっており、その知識も世界一と言っても過言で

はないでしょう。しかも、学校生活のなかで六年以上も、外国語を勉強している国は、世界の中でも類はないでしょう。

しかし、それだけの学習機会に恵まれていても、国際人が育たない。外国人の前に立つと気おくれしてしまふ、今は大分変わってきてはいると思いますが、これは外国語の知識だけでは、外国人の人々との心の交流ができないことの証拠です。

心の交流の手段は言葉だ。これからの国際化を考えると、今の外国語教育を改める必要があります。

— 母親の声 —

「母親に学ぶ」を共にして お母さんの声を二・三ご紹介します

「母親として何か立派なことを教えなければ、と構えてしまいましたが、将来、大人になり主婦になるために、毎日の細かい仕事の一つ一つがこんなにも大切で、教えることが多かったことに驚き、又、あまりにも子どもの知らない事の多いことにも驚きました。教えるながら、私自身反省したり、学校が細かく生活指導して下さっていることに感謝し、親子共々学んでおります。」(高一A 鶴川) た。」(高一B 桜井)

グアム島からの便り

小学校長
橋本正礼

この原稿を書いている今、甲子園では第六十九回全国高校野球選手権大会の真最中です。連日、真っ黒に陽やけた球児たちが白球を追って熱戦を繰りひろげ、スタンドでは何千人という応援団が一投一打に汗をふきふき歓声を張り上げています。そして、日本中の何百万か何千万の人々が、球場から何十キロか何百キロも離れた所で、テレビの前に釘づけになって見ているに違いありません。



浅間高原学校

(一)三年

今では、こんな事は当たり前の光景になってしまいました。テレビの本放送が始まったのが三十四年前、それがカラーになったのはたった二十七年前の事なのです。から、ほんの四十年前程までは、日本中の誰も、球場に行かずに試合の状況を見る事など絶対に不可能であったのです。

今から五十年前、つまり、私はまだ小学生だった頃には、テレビを初め今なら殆どどの家庭でも普通に使われている物の中に、まだ発明されていない物の中に、一般にはまだまったく使われていなかった物がたくさんあります。電気洗濯機、電気掃除機、電気冷蔵庫などの家庭電化製品もなかったし、インスタント食品もボールペンも無かったです。百年前にさかのぼれば、今私たちが毎日のようにその恩恵にあずかっている文明の利器の大部分は、まだ日本人の誰もが、見た事も聞いた事も無かつたはずなのです。

夏休み中、毎日のように小学校や幼稚園の子どもたちから便りが届きます。

昨日の便りのうち、一枚はグアム島から、一枚は沖縄から、そして二枚は長崎から旅の様子を報告してくれたものでした。この子どもたちは、多分、羽田か成田からジェット機に乗って、ひと飛びで目的地に着いたのだでしょう。でも、百年前には、まだライト兄弟の飛行機は、地球の引力を振り切った空中に舞い上がってはいなかったのです。飛行機に乗って旅行をした人など、百年前には世界中にたった一人もいなかったのです。

父親参観日

— 四月二十九日 —

東京文化小学校では、毎年四月二十九日の天皇誕生日に父親参観日を実施しています。

今年はお母さんも含めて児童数より多い二百六十名のご父兄が参加してくださいました。

まず、学園の土の校庭で朝礼をしてから学校に戻り、クラスごとに授業をしました。どの学年の教室も、周りをお父さんお母さん方にぎっしり囲まれた中で、子どもたちは顔をほてらせながら元気に勉強をしました。六年生だけはこれが最後の父親参観になるので親子でドッジボールの試合をしたのですが、第一戦は子どもチームの負け、第二戦は父親チーム全滅という接戦で、第三戦に父親チームが勝って賞録を示しました。

そのあと、父母は全員講堂に集まって、「地震・雷・火事」というテーマの校長の話を聞き、続いて各クラスに別れて学級懇談会を開きました。

次に、本校自慢の給食を、小学生の昔に返って子ども機と椅子で食べて腹ごしらえしてから、午後約五十名のお父さん方とお母さん方に教員が全員加わって四つのチームを作り、二チームずつ交代でソフトボールとバレー



1ボールの熱戦を繰りひろげ、三時間汗を流して父親参観日を終了しました。

昭和六十三年度児童募集

募集人員 男女合わせて約四十名 (内部進学を含む)

入学説明会 10月6日(火) 午前9時40分

願書受付 10月20日～11月12日

入学テスト 11月13日(金)

合格発表 11月14日(土)

★入学案内は小学校受付で配布中

ようちえん だより

日焼けした顔、ぐーんと背が伸びたお友だち、夏の間のそれぞれの豊かな経験を通して、心もからだも一段と成長した子ども達と一緒に二学期の第一歩をふみだしました。

八年前、三歳児の教育の大切さを痛感して再開した三年保育は、年ごとに希望者が増し、軌道にのって充実した保育をすすめています。入園当初は、まだ、どこかお乳の



元気一ばい体育活動

匂いのするような子ども達でしたが、夏休み前頃には、もう自分の足でしっかりと歩きはじめました。嬉しい成長の記録を豆鞘先生の保育日誌からご紹介しましょう。

色水あそびたのしいな!

今年は梅雨空を忘れたかのようになり暑い日が続き、水が恋しい季節になりました。

例年よりも早く色水遊びのコーナーを出すと、ひんやりとした感触が受けてか連日、満員盛況です。ことりぐみの子ども達も他のクラスのお友達といっしょに仲間入りして熱中しています。

いろいろな事に興味を持って、いつも生き生きと目を輝やかせているM君や仲よしのY君は色水遊びのコーナーのいちばん始めからの常連です。

いちごパックに水を汲んで好きな色紙を手でギュッと絞ると鮮やかな色水のジュースが出来あがります。早々とコップのみ込んで手際よく次々と沢山のジュースを作るM君やY君、色紙がまっ白になるまでギュッと絞って絞っている堅実派のYちゃん、色々なジュ

ースを混ぜて色の変わる様子を見ている研究熱心なY君などなど、色水遊びの楽しみ方もさまざまです。

各自が、おうちから持って来た乳酸飲料などの瓶に詰め平均台に並べるといつのまにかジュースやさんごっこが始まりました。

アスレティックの下でおうちごっこをしていたお友達がお客様です。黙々と色水作りに専念していたR君やT君がお店の人になって楽しそう……。

入園して四カ月の間に自分だけの世界からお友達の世界へ目を向け始めたことりぐみ、時折お互いの主張が強すぎてけんかをすることもありすが、いっしょに遊ぶ楽しさを感じているこのごろのようです。

体育活動

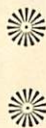
今年も例年通り、年長児達は、週一回、短大体育研究室の額谷修二先生より体育指導して頂いています。

一学期前半には、まだ、楽しくて体も心も浮かれているという様子で、集中して先生の指示をもらえ活動することも、体育用具の片付けも、うまく出来ずにいました。後半には、少しずつ真剣な取り組みがみられる様になって来ました。

夏休みも間近になったある日、「一人ずつ跳ぶところをみてみよ

う」と跳び箱の成果を披露するところになりました。簡単に跳ぶことが出来ている子どもも緊張の面持ちです。この日まで、全く跳べなかった子どもの中で、D君とAちゃんに初めて跳ぶことが出来、皆それでもとても嬉しそうに輝いてみえました。四月から続けて来た跳び箱も上に登ったり、両足で乗ったりすることを少しずつ積み重ねているお陰で、これからも出来るようになる子が増えていくことでしょう。

技術的向上を抜きには、語れませんが、この体育活動を通して一つのことに真剣に取り組むことや最後まで頑張り通すこと、皆で力を合わせてやることなど沢山のことを身につけていくことを願っています。



子どもの教育相談室

お気軽に相談を

子どもの自殺、家庭内暴力、登校拒否など、子どもの教育をめぐる諸問題が、新聞の社会面ににぎわしている昨今です。

東京文化幼稚園では、一人一人のお子さまの健やかな成長を願い、少しでもお母様方のよき相談相手になりたいと、子どもの問題では

第一人者の石井哲夫先生にご協力頂いて、「子どもの教育相談室」を開設してから五年目を迎えました。

石井哲夫先生は、日本社会事業大学の教授で、子どもの生活研究所の所長でいらっしゃいます。

お子さまの発達が順調かどうか確かめたい方、知能テスト、心理テストの測定をご希望の方、どうぞお気軽に相談においで下さい。相談日は毎週水曜日、午前九時三十分から午後四時までで、お一人

の所要時間は、約一時間三十分です。相談には子どもの生活研究所の永山恵美子先生があたります。予約により時間を決めますので、幼稚園(電話三八一・一一八三)までお申し込み下さい。相談料は三千円です。

昭和六十三年度
園児募集
公開保育日 9月29日(火)
雨天の場合
9月30日(水)
(9・30) 11・30)

入園説明会 10月14日
(2・30) 3・30)
願書受付 11月1日のみ
入園児諸検査 受付順に実施
三才児男女15名
四才児男女25名
五才児 若干名

を募集します。幼稚園案内を配布中です(無料)

東京文化幼稚園

支部会各地で開催

長野県支部会

学園の卒業生は全国各地に広がっています。その連絡をはかり、親睦を深めるために支部会が次頁のように設けられています。今年も数カ所で支部会の開催が計画されています。すでに行われたものは次のとおりです。なお、十月以降に開催されるものについては、次号でご報告いたします。

愛知・岐阜・三重 合同支部会

春風の薫る四月十六日、愛知・岐阜・三重の三支部の合同で岐阜県長良川畔の「すぎやま」で支部会が開かれました。静岡県からの方を含め、専門学校、短大、医技高校の同窓生二十二人が出席し、旧交を暖めました。

今回は、東京から森本儔子先生と中川悦先生をお迎えし、母校に七番目の学校としてビジネスアカデミーができたこと、桃園寮が桃園校舎に変わったことなど、創立六十周年の発展の様子を伺いました。



八月二十七日、長野県上田市の別所温泉「花屋ホテル」で長野県支部会が開かれました。支部の出席者は支部長の山崎さち子さんをはじめ四人でした。ちょうど同窓会の「別所温泉の旅」で四十七人が同じ旅館にお泊まりになっていて、森本儔子先生、黒沢教子先生、森本晴生先生が同行されていらっしゃいましたので、母校のお話を伺い、和やかなひとときを過ごしました。

右から山崎支部長、森本晴生先生



東京文化学園同窓会理事名簿

会長	白井スエノ	166	杉並区堀の内1-10-6	03-312-0428
副会長	湊く	174	板橋区成増4-21-3	03-930-6011
"	青木純子	176	練馬区中村3-5-16	03-999-4212
会計監査	桜庭法子	143	太田区池上3-17-4	03-753-2735
"	赤木君江	160	新宿区若葉町2-8-7	03-351-4666
専門部 幹事長	篠原初江	187	小金井市花小金井2-755	0424-65-1997
副	田村美知子	181	三鷹市下連雀4-17-14	0422-43-4900
高女部 幹事長	竹の谷智子	272	市川市東菅野1-3-23-403	0473-25-2733 勤務先 03-806-3180
副	小堀一枝	166	杉並区阿佐谷南1-1-40	03-316-0833
短大部 幹事長	小宮山寿々子	108	港区高輪4-12-15-209	03-441-2155
副	山端道子	156	世田谷区羽根木2-1-10	03-321-8030
"	小暮明子	165	中野区上鷺宮1-25-9 篠ハイツ1-201	03-926-9514
医技部 幹事長	中谷谷子	223	横浜市港北区綱島西6-21-19-302	045-545-1148
副	小栗豊子	112	文京区小石川5-11-15 小石川ビューパレス902	
高女部 幹事長	安達房代	164	中野区東中野3-4-8 桜山ハイツ101号	03-364-6029
副	小口幸子	177	練馬区関町南4-1-25	03-928-6737
"	三雲保子	166	杉並区和田1-67-17	03-381-1049
"	横尾久子	166	杉並区和田1-70-16	03-381-6030
"	佐藤直子	184	小金井市緑町5-10-22	0423-81-1080
小学校	河村浩太			
特別校内理事				
	森本晴生	227	学園内	03-381-0196 内線271
	長岡文悦		横浜市緑区桜台25-1 桜台ビレッジ48202	045-982-1153
	中川悦子		学園内	03-381-0196 内線237
	黒沢教子		"	256
	白鳥雅子		"	234
	小島圭子		"	249
	小松洋子		"	224
	小見美智子		"	238
校内理事	石田由美子		東京文化小学校給食室	03-381-1184
	小川みゆき		学園内	03-381-0196 内線230
	青木弥生		"	233
	佐伯かよ子		東京文化医学技術専門学校	03-381-0121
	笹木靖子		学園内	03-381-0196 内線238
総務	大池光	164	中野区本町6-41-1	03-381-4715

東京文化学園同窓会支部一覽表

北海道札幌支部	玉木美佐 060	札幌市中央南1条西5丁目	TEL 011-231-4017
帯広支部	川上幸子 080	帯広市依田町6	TEL 0155-23-2201
青森県支部	木村正枝 030	青森市浜田板橋23	TEL 0177-34-6426
秋田県支部	那須ノブ 010	秋田市保土野中町6-14	TEL 0188-62-2570
岩手県支部	山田泰子 020	盛岡市東緑ヶ丘17-12	
山形県支部	星信子 992	山形市蔵王飯田1413	TEL 0236-41-7547
宮城県支部	稲村きくえ 980	仙台市鶴ヶ谷5-20-19	
新潟県支部	福島晶子 947	小千谷市2026	TEL 02588-2-1131
福島県支部	岡部ますみ 963-02	郡山市大槻町熊野木34	TEL 0294-51-1631
富山県支部	布村清子 930-11	富山市大町1区南部43-5	TEL 0766-25-3557
長野県支部	山崎さち子 390	松本市浅間温泉189	TEL 0263-46-0882
茨城県支部	山田よし 319-15	北茨城市磯原町磯原1215-3	
栃木県支部	戸部八重 320	宇都宮市西2-2-30	
群馬県支部	塚田幸子 371	前橋市日吉町2-6-11	TEL 0272-31-7090
静岡県支部	島田良香 430	浜松市下池川町2-11	TEL 0534-71-2569
岐阜県支部	林志づ 504	各務原市那加雲雀町37	TEL 0583-82-0770
愛知県支部	野田梅子 464	名古屋市千種区田代町4観音堂西15-3	TEL 052-711-2959
副支部長	朽木美代子 465	名古屋市名東区松井町311	TEL 052-703-7716
鳥取県支部	中増正子 680	鳥取市馬場14	TEL 0857-22-3409
兵庫県支部	典子 658	神戸市東灘区御影町郡家大蔵23-3	TEL 078-851-3830
岡山県支部	後藤美枝 701-21	岡山市玉柏380-4	TEL 0862-28-1851
広島県支部	石橋勝子 729-64	広島市高田郡甲田町上甲立	
高知県支部	森美佐子 780	高知市高須新町4-8-3	TEL 0888-83-8227
愛媛県支部	鎌田徳子 795	松山市高岡町781-7	TEL 0899-73-6099
福岡県支部	龍久仁子 832	柳川市糞屋町48	
大分県支部	長田尚子 874	大分県南海郡蒲江町大字蒲江蒲3383	TEL 09724-2-0005
宮崎県支部	樋口セツ 885	都城市早水町5-8-1	
長崎県支部	久松つる江 856	大村市片町71	
熊本県支部	橋本静子 867	水俣市古城1-3-10	TEL 09666-2-3263
鹿児島県支部	堀川ミヨ 890	鹿児島市天保山町13-15	TEL 0992-55-3687
副支部長	永山高子 890	鹿児島市和田町883-6	TEL 0992-61-6328
沖縄県支部	阿波根由子 904	沖縄市諸見里717-1	TEL 09893-3-0822

収支計算及び予算

収入科目	昭和61年度		昭和62年度	支出科目	昭和61年度		昭和62年度
	予算	決算			予算	決算	
1 会費収入	3,473,000	3,473,000	3,191,000	1 通信費	100,000	108,560	120,000
	小 5,000×39 = 195,000		5,000×27 = 135,000	2 印刷費	200,000	127,190	180,000
	高 5,000×244=1,220,000		5,000×232=1,160,000	3 会合費	350,000	331,080	350,000
	医 6,000×65 = 390,000		6,000×45 = 270,000	4 事務費	20,000	53,710	30,000
	短 6,000×278=1,668,000		6,000×271=1,626,000	5 会報会計へ繰出	1,200,000	1,200,000	1,200,000
	3,473,000		3,191,000	6 交際費	150,000	198,510	200,000
				7 支部費	100,000	84,800	100,000
2 受取利息	250,000	304,130	250,000	8 総会会計へ繰出	400,000	400,000	400,000
3 雑収入	0	0	0	9 部会活動費	300,000	300,000	300,000
4 年会費	1,300,000	1,655,000	1,400,000	10 入会記念品費	400,000	378,100	430,000
5 前年度より繰越	178,103	178,103	355,183	11 役員交通費	200,000	159,000	200,000
収入合計	5,201,103	5,610,233	5,196,183	12 人件費	560,000	560,000	560,000
61年度末残高				13 名簿部へ繰出	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1. 本会費	定期預金 現金	13,349,028		14 積立金	200,000	300,000	100,000
2. 事業部	定期預金 現金	7,270,627		15 予備費	21,103	54,100	26,183
	販売品	3,221,700		小計	5,201,103	5,255,050	5,196,183
3. 名簿部	定期預金 現金	1,251,248		次年度繰越		355,183	
4. 会報発行部		353,149		合計	5,201,103	5,610,233	5,196,183

理事会・幹事会のつぎ

昭和六十一年度
第三回理事会

九月二十七日(土)「同窓会館」にて

一、「泉」発送報告

二、学園祭について

第四回理事会

十二月四日(木)信濃町「陣屋」にて

一、学園祭売店報告・反省
(別項を参照)

二、同窓会入会式の件

三、観劇会の件

四、第四回海外旅行について

第五回理事会

三月四日(水)「同窓会館」にて

一、第一回幹事会について

二、予算・決算について

三、六十二年年度年間行事計画について

四、第四回海外旅行について

五、観劇会について

昭和六十二年度
第一回幹事会

四月二十三日(木)学園第二カフ
エテリアにて

一、新幹事紹介
二、昭和六十一年度決算及び六十二年年度予算について

三、総会について
四、第四回海外旅行について
五、観劇会について

第一回理事会
五月二十日(水)「同窓会館」にて

一、観劇会中間報告
二、学園創立六十周年記念式典について

三、総会について

四、学園祭について

五、同窓会主催旅行について

六、「泉」について

第二回理事会

七月八日(水)「同窓会館」にて

一、観劇会の反省及び報告

二、総会について

三、学園祭について

四、「泉」中間報告

五、海外・国内各旅行について

六、支部の状況報告

高校同期会

ほのぼの会開催される

六月十四日(日)正午より私学会館において、高校卒業二十年を記念してほのぼの会(高校四十二年卒業の同期会の名)を開催致しました。

土居先生、黒沢先生ご夫妻、伊藤先生がご出席下さいました。出席者の中には、卒業以来はじめて会う友達もありましたが、話が進むうちに高校時代に戻り、楽しい和やかな一時を過ごすことができました。

三十七年卒同期会

七月四日(土)午後五時より新宿ワシントンホテルにおいて高校三

十七年卒の同期会が開かれました。来賓に島村美代子、黒沢信男、黒沢教子、松崎省吾、家永勝、嶋田博の各先生を迎えて約五十名余の同期生が集まり、思い出話に花を咲かせました。

出席者全員の近況報告に殆んどの時間を費やし、先生方への花束贈呈で幕を閉じましたが、久しぶりの再会とあって、時のたつのも忘れるほどでした。



鬼 郁 子さん
日本照明家協会賞受賞

在校当時演劇部で活躍された鬼(高二十八期 旧姓坪井)さんは、卒業後も演劇方面の照明部門において活躍され、この度、「水中の特殊空間」に対応出来る器具の開発と永年にわたるその公演の成果」に対して、榮譽ある六十一年度日本照明家協会賞技術賞を受賞されました。今後の益々の御活躍を祈ります。

学園祭の売店報告

昨年十一月二日と三日の学園祭では、例年のように同窓会の売店を出しました。皆様のご協力で二色弁当、サンドイッチ、ポップコーン、パンティストッキング等を販売し、二二六、五七四円の収益がありました。

このほかに、同窓会特製の校章入りのコーヒーカーップとスプーンも販売いたしました。なお、このコーヒーカーップ(一脚六百元)とスプーン(一本七百元)はいつでも販売しておりますので、ご希望の方は同窓会事業部(電話〇三三三八一〇一九六・代表)にご連絡ください。

年会費をお忘れなく

卒業後十年以上の方々に、年会費として千円の納入をお願いしておりますが、毎年千三百人余の方々にご協力をいただき、有難うございます。

会員は年々六百人以上増加し、通信連絡等のコストも上ってきております。一人でも多くの方のご協力をお願いいたします。

なお、今回は昭和五十二年三月までに卒業された方々に年会費の振替用紙を同封しました。(昭和五十二年三月以降の卒業の方には振替用紙を同封いたしません。)

住所変更のときは

お陰様で同窓生名簿も不明者が序々に減り、大変嬉しく存じます。折角「泉」等をお送りしても、転居先不明で返送されてきますと大変残念です。お手数でも転居の際ハガキに宛名ラベルの番号を付けてご連絡をお願いいたします。(名簿部)

訃報

山崎努先生は昨年八月に逝去されました。先生は昭和二十八年から四十一年まで、短大で調理学を担当されました。

尾澤金衛先生は今年六月二日に逝去されました。元、学園会計課で学園に勤務されました。

久保喜勇先生は今年九月二日に逝去されました。先生は昭和二十二年から五十五年まで、短大で住居学を担当されました。

編集後記

同窓会館ができました。「泉」の編集もここですべてしています。クラス会等でも使えます。同窓会に申込み、光熱費他として一回(半日)千円を学園に納めて使用するのことでです。使用の状況は次号で。